

# 第14期コープ災害ボランティア養成講座報告

## 企画の概要

東京都生協連のコープ災害ボランティアネットワークは、阪神淡路大震災後のボランティア活動の経験をきっかけに、災害時における地域でのボランティア活動の中心となる人材の育成を目的に、2002年に発足しました。取り組みのひとつとして、「コープ災害ボランティア養成講座」を毎年開講してこれまでに500名以上の生協職員や組合員が受講しています。このネットワークをさらにひろげるために、今年度も募集を行い69名の応募があり、第14期養成講座として連続5回のプログラムで開講しました。

**対象** 会員生協の職員・組合員（とその家族）

**募集定員** 50名程度

**受講料** 3,000円※開催時期

日程・会場・内容		受講生人数	CO 災害幹事 講師,事務局
第1回 9/27 東京都生協連会館	開講式・オリエンテーション・講演	59名（職員7・組合員52）	7名
第2回 10/4 東京都生協連会館	普通救命救急講習	66名（職員9・組合員57） ※スキルアップ受講7名含む	5名
第3回 11/1 あんさんぶる荻窪 とその周辺	防災・減災視点のまち歩きと マップづくり（杉並区荻窪周辺）	56名（職員6・組合員46・杉 並区4）	22名
第4回 11/15 中野サンプラザ	被災&ボランティアシミュレーション	59名（職員6・組合員53）	9名
第5回 12/6 東京都生協連会館	炊き出し訓練・修了式	64名（職員6・組合員58）	11名

※第3回の講師には、ファシリテーター役として18名参加（杉並VC災害ボランティア養成講座修了生8名、CO災害幹事・会員10名を含む）。

第14期修了生（67名）  
コープみらい 33名  
パルシステム東京 22名  
東都生協 5名  
全労済 4名  
生活クラブ・東京 2名  
東京都生協連 1名

★★皆勤者（33名）★★  
コープみらい 16名  
パルシステム東京 9名  
東都生協 3名  
全労済 3名  
生活クラブ・東京 1名  
東京都生協連 1名



【講師】  
東京災害ボランティアネットワーク  
事務局長の福田信章さん  
（1・3・4・5回担当）

## 第1回 開講式（講演とワークショップ）

東京都生協連竹内専務理事のあいさつに続いて、大矢CO災ボ代表幹事から講座の目的とすすめ方についてお話がありました。東京災害ボランティアネットワークの福田さんからは、災害ボランティアは知識やテクニックよりの気づきが大切で、災害が起こる前の防災・減災活動が災害時に役に立つ、というお話がありました。



### 【養成講座に応募した動機】（アンケートより）

- 自分が被災した時、被災地に行った時、何ができるのかを知りたいと思って。
- 防災、減災に興味があった。
- 災害時にパニックにならず、落ち着いて行動できるようにしたい。
- ボランティアに興味があって、被災地のことを知りたいと思って。
- 情報収集のため。

## 第2回 普通救急救命講習

例年どおり中野消防署に講師を依頼して、普通救命講習を行いました。講習後に交付される「救命技能認定証」は3年以内の再講習が推奨されるため、現CO災ボ会員の7名と一緒に再講習を受けました。訓練用の人形10体と、AED10台を使って、応急手当の重要性、心肺蘇生の体験訓練、AED説明と使い方の訓練、気道異物除去の方法などについて学びました。参加者のアンケートから、2回目以上の講習受講者が多いことが分かりました。繰り返して受講することの重要性も多くの参加者の感想にみられました。



### 【第2回参加者の感想】

- 胸骨圧迫にこんなに力があるとは思わなかった。 ●最新の手当が学べて勉強になった。
- 実際にやってみることで、強さや速さがよくわかり体験できてよかった。
- マウスピースがあり、安心してできそう。 ●何回も体験して体にしみこませたい。 ●救急車が来るまでにすべき事がわかった。 ●迷わないで助けることができれば救える命がある、と思った。

## 第3回 防災・減災視点のまち歩きとマップづくり

昨年に引き続き、杉並区社会福祉協議会と合同でまち歩き・マップづくりを実施、荻窪周辺を周りました。今回初めての試みとして、6月にCO災ボで実施したスキルアップ講座「防災まち歩き・マップづくりトレーナー養成講座」修了生と、杉並区社会福祉協議会の災害ボランティアセンターリーダー養成講座修了者が、一緒に、事前に歩いてコースを決めるまでを行いました。その上で、18名が当日のグループリーダーとファシリテーターの役割を担いました。災害を想定して、危険な箇所や役に立ちそうな箇所、災害があった後でも残しておきたい場所や雰囲気などを探しながら荻窪のまちを歩きました。その後、グループごとに見てきたことを話し合いながら地図に書き込んで、まち歩きマップを作成しました。



### 【第3回参加者の感想】

- 視点を変えて歩くと気付くことがたくさんあった。 ●普段歩く時、意識して歩くようになると思う。
- 自分の地域での避難場所までの安全経路を確認しておこうと思う。
- メンバーと仲良くなれた、良い交流となった。 ●グループで楽しくマップ作りができた。
- 一人では無理で、分担する力を感じた。 ●記入することで思い出し、再確認できる。

## 第4回被災&ボランティアシミュレーション

中野サンプラザで、「避難所を考える」をテーマに開催しました。災害対応カードゲーム「クロスロード」を参考にしたシミュレーションプログラムでは、避難所でのいくつかの事例に対して、直感的に2つの答えからどちらかを選び、より良い答えをグループで導き出す体験をしました。

グループで様々な意見や価値観を共有することは、災害時の対応を誠実に考え、そのためには災害が起こる前から考えておくことが重要であることに気づく良い学びとなりました。



### 【第4回の感想】

- クロスロードでは、正解が無いだけにいろいろと考えさせられた。 ●グループワークで交流ができて良かった。実際の避難所でも声を出し合って協力できたら。想像力と創造力の大切さを知った。
- 事前に想定しておくことの大切さを感じた。 ●避難所生活は、とくに弱者にとっては本当に過酷。偏らない住民参加で災害が起こる前に準備できると良い。 ●避難所が、思っているような空間では無いことが分かった。できるだけ自宅で過ごせるように努力する。

## 第5回炊き出し訓練と修了式

50名分のアルファ化米炊き出しと、ハイゼックス包装食の説明をCO災ボ幹事が中心に行い、全員で試食しました。講師からは、避難所での実際の炊き出しの様子と、炊き出しの意味について学びました。講座の振り返りでは、受講の感想や、今後の目標を、フリップ形式で出し合い、グループで共有しました。災害が起こる前の日常の取り組みの重要性に、多く受講生から気づきが出されていました。

修了式では修了生67名及び皆勤者33名に賞状が授与され、第14期コープ災害ボランティア養成講座が無事に終了しました。



### 【講座を受けて】

- 炊き出しの意味について学べた。家庭での備蓄も重要であると分かった。
- 昔に比べて非常食がおいしくなっていると感じた。

### 【今後の活用について】

- 地域の訓練に参加してみたい。 ●家族に伝えたい。
- 被災地に行って活動したい。



## まとめ

毎回高い出席率で、約半数が皆勤でした。生協連会館建替え移転の関係もあり、例年より短期間での5回連続講座だったこと、組合員の受講生が多かったことなども参加の多さと思われます。運営面では、第3回「防災・減災視点のまち歩きとマップづくり」では、杉並区社会福祉協議会と合同で実施出来たこと、6月に開催したCO災ボ会員向けスキルアップ講座に参加した会員が、ファシリテーターを自ら担当・活動しました。また、CO災ボ幹事が各回の司会や進行を担当しました。スキルアップ講座への参加や、訓練や実際のボランティアへの参加希望がアンケートに記されており、受講生にとって気づきの多い講座となりました。各生協や地域での活動参加も、今後期待されます。修了生はCO災ボ会員に登録され、会員は14期生を含めて441名（連絡可能な人数）となります。そのうちメールアドレス会員も176名（39.9%）となり、今後も情報発信の工夫をしていきたいと思ひます。